

令和7年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

令和7年4月1日～令和8年3月31日

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

令和7年度 加西市教育委員会点検評価 総括表

「令和7年度教育の重点」の中から点検評価の取組項目として採用したのは以下のとおりです。

番号		取組項目	担当課の 達成評価	頁
1	①	園で野菜の栽培、収穫やクッキング等の体験を通して、食への関心を育み、健康的な生活の基本となる「食を営む力」の基礎を培う食育を推進します。	4	2
	②	5歳児から小学校1年生の2年間の学びの連続性に配慮した「架け橋期」の教育を充実します。	3	
	③	放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。	4	
2	①	「勉強が分かる」「勉強が面白い」と思える授業づくりを通して、学習の基盤となる資質・能力の向上を図ります。	4	3
	②	本物に触れ、心を動かす体験を通して、「知りたい」「創りたい」といった探究心を培います。	4	
	③	小中一貫した外国語教育を充実させ、地域や国境を越えて、広い視野をもって多様な他者と交流できるマインドやスキルを持つグローバル人材の育成を推進します。	4	
3	①	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して、健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	4	4
	②	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	3	
4	①	兵庫県教員資質向上指標に基づき、教職員のキャリアステージや喫緊の課題など、教職員のニーズに応じた研修講座の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努めます。	4	5
	②	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。	3	
	③	校内の組織体制を整備し、保護者と課題意識を共有して、不登校児童生徒の社会的自立を目標に、状況に応じた適切な支援を行います。	3	
5	①	「人生100年時代」を見据えた学びを推進するため、市民や時代のニーズを的確に把握し、地域や学校、企業等とも連携した多様な学びの機会を提供します。また、オークタウン加西では野外活動を中心に様々な体験ができる講座を開催します。	4	6
	②	地域からの要望と登録グループを“つなぐ”ことにより「公民館まちづくり出前講座」の活動を推進し、学びの成果を地域に還元できる人材の育成、地域づくりに活用できるよう取り組みます。	4	
	③	歴史文化遺産の調査を実施し、新たな価値や魅力発見に努めます。また、出前講座や展示活動等を通じた学び、考える機会の創出とホームページ等様々な媒体を活用して地域の歴史文化遺産の魅力を広く発信します。	4	
6	①	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。	3	7
	②	市立図書館と学校園とが連携し、児童生徒の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。	4	
	③	こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整える支援をします。	4	
7	①	学校再編を進めることで、多様な人との関わりと学びの機会を確保し、子どもと教職員、保護者、地域と一緒に成長できる教育環境を整備します。	4	8

番 号		1	所属課		こども未来課
基本方針		幼児期の子育て支援の充実			
取組項目					
①	園で野菜の栽培、収穫やクッキング等の体験を通して、食への関心を育み、健康的な生活の基本となる「食を営む力」の基礎を培う食育を推進します。				
②	5歳児から小学校1年生の2年間の学びの連続性に配慮した「架け橋期」の教育を充実します。				
③	放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。				
評価		5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績		自己評価	達成評価
①	・野菜の栽培や収穫、調理の体験を通じて、食への興味・関心や「食を営む力」を育む。健康的な食生活の基盤を作り、食材への感謝の心を養う。 ・料理や栽培などの実体験を通じて、楽しみながら必要な食の知識や技能を身に付けるとともに、自立した生活の基礎となる力を育む。	・こども園において、野菜の栽培から収穫、さらに収穫した野菜を用いた調理までを行う活動を実施した。これにより子どもたちは、食材がどのように育成されるかを体感的に学ぶとともに、食物への興味を深める機会を得た。また、自ら収穫した野菜を調理する経験を通じて、食物の重要性や自然へ感謝する姿勢を培うことができた。本活動は、楽しみながら健康や食生活への関心を促進する一環としても有意義なものとなった。		・野菜の栽培や収穫、調理の体験を通じて、多くの子どもたちが食物や料理への関心を持つようになり、健康的な食生活の基盤作りの機会となったため目標を達成できた。 ・料理や栽培などの実体験を通じて、自然の摂理への理解や忍耐する姿勢を育み、自立した生活の基礎となる力を育む機会となったため目標を達成できた。	4
②	・幼児期から学齢期への移行をスムーズにするために、5歳児の遊びや活動と小学校1年生の学びをつなげる指導・支援体制を整備する。 ・個々の子どもが安心して学びを継続できる環境を構築する。	・移行をスムーズにする取り組みについて、5歳児の遊びや活動と小学校1年生の学びをつなげるための体制整備を目指して、園内活動で小学校で必要となる協調性や基礎的な生活習慣を養う取組を行ったり、近隣の小学校との交流を実施した。 ・個々の子どもが安心して進学できる環境についても、地域の学校との情報共有や子ども自らの心理的な準備に対する支援が、不十分なところがある。		・移行支援については、本格的な体制整備には至らなかったものの、交流活動等を通じた実践が一定の成果を得ることができたためほぼ目標を達成できた。 ・個々の子どもが安心して学びを継続できる環境構築については、支援体制に不十分なところもあったが、学校との情報共有を図るなど環境整備が進んだためほぼ目標を達成できた。	3
③	・児童が放課後を安全かつ主体的に遊びや活動を選択できる環境を整えるため、支援員研修の充実を図る。 ・就労等により児童を保育できない世帯を支援するため、待機児童解消に向けて施設整備を推進する。	・支援員研修を2回実施した。放課後支援員認定資格研修の受講により9名が資格を取得した。 ・北条東第3学童施設改修により、定員を40名拡充できた。また、令和8年度の北条学童希望者が定員を超過したため、社会福祉法人円融会施設と2年間の賃貸借協議を行い、北条第3学童保育園として施設を利用できる見込みとなった。これにより定員45名拡充できた。		・支援員研修の充実を図り、認定資格取得者が9名増加し、支援員全体の約8割以上が資格取得者になった。また、北条東第3学童と北条第3学童の整備を図り、待機児童解消の目的が立ったことから目標を達成できた。	4
教育委員 評価コメント					
①幼児期に健康的な食生活の基盤となる力の育成や、③学童保育に関する取組は大いに評価できる。					
②幼児期から学齢期のスムーズな接続は難しい課題であるが、とても大事な観点であり、引き続き幼小連携の充実を図っていただきたい。					

番 号		2	所属課		学校教育課
基本方針		主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目					
①	「勉強が分かる」「勉強が面白い」と思える授業づくりを通して、学習の基盤となる資質・能力の向上を図ります。				
②	本物に触れ、心を動かす体験を通して、「知りたい」「創りたい」といった探究心を培います。				
③	小中一貫した外国語教育を充実させ、地域や国境を越えて、広い視野をもって多様な他者と交流できるマインドやスキルを持つグローバル人材の育成を推進します。				
評価		5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績		自己評価	達成評価
①	・全ての学びの基盤となる読解力の向上を図るため、リーディングスキルトレーニングを積極的に推進する。 ・授業力向上アドバイザー、外国語教育アドバイザー、特別支援教育アドバイザーを学校に派遣し、授業力向上を支援する。 ・標準学力テストの実施により、児童生徒のつまずきの発見や教師の授業分析を行い授業改善を推進する。	・リーディングスキル初年度であり、テストを児童生徒と教職員に実施し、その後トレーニングを開始した。また、各校担当者を集めた研修会を3回行った。 ・各アドバイザーは学校の求めに応じて各校を計画的に訪問し、授業力向上に向けた効果的なアドバイスが出来た。 ・標準学力調査初年度にあたり、実施は計画的に行い、分析のために教科書会社の専門員を招聘し説明を受け理解を深められた。		・リーディングスキルと標準学力調査については、年度途中の計画立案であったが、確実に実施に繋げることができ目標を達成できた。 ・各アドバイザーの助言により授業力が高まったと自己評価している教職員が出ているため目標を達成できた。	4
②	・各校が地域の特色や資源を活かし、教科横断的な学習活動や探究的な活動を推進する。 ・本物に触れ、心を動かす体験を創出するため、ゲストティーチャーや地域人材を積極的に活用する。	・地域の企業や農家の方をはじめとするゲストティーチャーを招いたり、兵庫教育大学との連携により、探究や創造をテーマとした様々な実践を行った。 ・西本智実氏を招いて、北条東小と富合小の児童に、今年度で3回目となる体験型音楽教室を実施できた。回を重ねる毎に成果が上がっている。 ・11月には、初めてイオンモール加西北条店の場所をお借りして、STEAMフェスティバルを行った。多くの方が足を止め、見学したり参加し、盛況であった。		・教科横断的な学習活動や探究的な活動については、各校の工夫した取組によって一定の目標を達成できた。 ・本物に触れ、心を動かす体験については、体験型音楽教室は目標を上回る成果があり、STEAMフェス、各校でのALTや地域人材の活用なども確実に実施でき、目標を達成できた。	4
③	・外国語授業の充実を図るため、ジョリーフォニックス研修の充実やALT派遣事業所との連携を強化する。 ・実用英語検定の補助や英検IBAを充実させ、児童生徒の基礎的な英語力の育成を図る。 ・イングリッシュミーツや海外短期留学をとおして英語に一層興味を持たせ、グローバル人材の基盤を育成する。	・ジョリーフォニックス研修会を4回実施、昨年度よりも充実した研修となった。 ・英語検定は実施だけでなく、2次対策としてALT派遣業者の協力を得て面接練習を10月に希望者対象に行った。 ・初めてのオーストラリア短期留学を、委託業者と連携を取りながら3月に実施できた。事前学習会や説明会も計画的に行った。生徒の体験や成長、カソワリーコスト市との交流など、全てにおいて予想を超える事業となった。		・小学校外国語担当者の授業実践力が高まり、外国語教育アドバイザーの指導が大きな効果を発揮しているため目標を達成できた。 ・英検に対する取組は、合格率の向上に未だ結びついていないため目標をあまり達成できなかった。 ・海外短期留学については、全工程で非常に高く評価できる成果を収めたので目標以上の成果を得られた。	4
教育委員 評価コメント					
①リーディングスキルトレーニングの確実な実施により、今後、学習の基盤となる能力の向上が期待できる。 ②探求学習において、地域人材を活用することにより、効果的な探求心の向上が図られている。 ③英検の合格率向上に向けての取組みを、多方面から実施していく必要があると考える。					

番 号		3	所属課		教育総務課
基本方針		主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目					
①	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して、健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。				
②	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。				
③					
評価		5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績		自己評価	達成評価
①	・食育の取り組みを促進させることによって、残食を減らす。 ・調理員に対する研修を開催し、衛生安全の理解を高める。	・小中学生を対象に、給食アンケートをとり、現状を把握し見えた課題「残食」について、栄養教諭等と調理法やメニューの工夫について取り組んだ。 ・学校の夏休み中に衛生管理の研修会を全調理員に行った。		・食育を促進するため、アンケート結果をもとに栄養教諭や学校と協働して多方面から残食の削減に取り組み目標を達成できた。 ・学校の夏休み期間に全調理員を対象に衛生管理の研修を開催し、再度衛生管理の必要性や手順などについて確認し衛生安全の理解が高まったため目標を達成できた。	4
②	・4 中学校の体育館に空調を整備する。 ・今後の統合を見据えながら、学校が要望する修繕に対して適切に対応していく。	・4 中学校の体育館の空調設備整備を早期に整備できるよう設計施工一括方式で業者選定をしたが、原材料や部品の不足のため、受電設備が間に合わず来年度の完成となった。 ・学習活動に支障をきたさないよう、適宜、また計画的に整備を進めた。		・体育館の空調設備整備については、建設材料や機器部品の不足などにより工事は完了しなかったが整備の目途が立ったためほぼ目標を達成できた。 ・学校統合を見据えながら、重点的に統合しない学校の維持管理を行い目標をほぼ達成できた。	3
③					
教育委員 評価コメント					
①残食を減らすという目標達成のためにアンケートを取り、回答や現状の実態把握から、メニュー、調理法、食事マナー、地産食材への啓発等様々な取り組みをされているのが見て取れた。令和8年度も引き続き、加西としての特色ある給食、子ども達が楽しみにする給食、完食する給食にするために更なる取組をしていただきたい。 ②昨近の気候変動により、特に暑さ対策は、児童生徒の健全な学校生活、体育的学習、部活動をすすめるための必要な課題であると考えます。世界情勢の悪化・資材不足というやむを得ない状況であるが、令和8年度内でも素早い完了が成されるよう取り組んでいただきたい。					

番 号	4	所属課	総合教育センター	
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目				
①	兵庫県教員資質向上指標に基づき、教職員のキャリアステージや喫緊の課題など、教職員のニーズに応じた研修講座の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努めます。			
②	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。			
③	校内の組織体制を整備し、保護者と課題意識を共有して、不登校児童生徒の社会的自立を目標に、状況に応じた適切な支援を行います。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	・昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果から学校現場のニーズを把握するとともに、教育課題に応じた研修講座を計画する。 ・講師の精選と研修時期や開催方法を工夫し、学校（園）現場の教職員がより受講しやすい環境を整備する。	・学校現場のニーズに応え、担当者研修を希望者研修に変更することで、受講者の幅が広がり、専門性を高める機会とできた。 ・講師を精選し、対面式の講座を中心にオンライン、アーカイブ等講座の内容に合わせて開催方法を工夫したことで、より多くの教職員の受講につながった。	・各講座の受講後アンケートの「総合教育センター研修講座は自身の教職員としての資質向上（知識・スキルアップを含む）に役立ったか」という設問の5段階評価は、平均4.62であり、受講者のニーズに応えることができ、目標を達成できた。 ・開催時期は、講師の都合等によって学校現場が多忙な時期に開催した研修講座があったため、引き続き検討が必要である。	4
②	・児童生徒一人一人の個に応じた支援を行うために、スクールカウンセラーだけでなく、総合教育センターの臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、発達支援アドバイザー等専門性のある職種からの助言を生かし、学校を支援する。 ・重大事態に陥る可能性のある事案については、学校はもとより子育て支援課や子ども家庭センター、警察等と連携して早期対応を行う。	・児童生徒の個に応じた支援を行うために、スクールカウンセラーだけでなく、総合教育センターの臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、発達支援アドバイザー等専門性のある職種からの助言を生かしながら、学校の支援ができた。 ・普段から学校や関係機関等と連携を密に図ることで、重大事態は発生しなかった。	・専門性のある多様な職員が所属する利点を生かし、職種間でも積極的に連携を図り、学校の支援に努め、目標をほぼ達成できた。 ・重大事態は発生しなかったが、SNS等に起因する問題行動への対応に苦慮することがあり、更なる情報モラル教育の充実と保護者の啓発が課題である。	3
③	・悩みを抱える家庭を支援するため、学校と情報共有を図り関係機関に繋げるスクールソーシャルワーカーの活動を推進する。 ・不登校支援員の資質向上を図るために、不登校支援員が研修に参加し、個に応じた支援ができるようにする。	・悩みを抱える家庭を支援するなかで、スクールソーシャルワーカーにより学校や関係機関との情報共有や連携が進み対応できるケースが増えてきた。 ・不登校支援員の資質向上を図るために、日々のOJT研修も含め、不登校支援員が研修に参加し、個に応じた支援ができることが増えた。	・スクールソーシャルワーカーの対応件数が増える中で、教育支援センター、校内フリースクール、校内サポートルームや関係機関につなげられたケースが増え、目標をほぼ達成できた。 ・限られた時間の中で不登校支援員の資質向上をいかに図り、個に応じた支援ができるようにするかが課題である。	3
教育委員 評価コメント				
①引き続きオンライン、アーカイブ等を活用して受講率を維持して下さい。特に重要な講座については、研修講座をひらくか、夏・冬期休暇に実施するなど検討していただきたい。 ②SNSに対する問題が増加していることから、ネット問題に詳しい専門家とのコミュニティーを増やして助言や対策をまとめたマニュアル等の整備を検討していただきたい。 ③教育支援センター・校内フリースクールなどの取り組みを加西市内に限らず全国から情報収集し、新しい取組を検討していただきたい。				

番 号		5	所属課		生涯学習課
基本方針		生涯にわたる学習の充実			
取組項目					
①	「人生100年時代」を見据えた学びを推進するため、市民や時代のニーズを的確に把握し、地域や学校、企業等とも連携した多様な学びの機会を提供します。また、オークタウン加西では野外活動を中心に様々な体験ができる講座を開催します。				
②	地域からの要望と登録グループを“つなぐ”ことにより「公民館まちづくり出前講座」の活動を推進し、学びの成果を地域に還元できる人材の育成、地域づくりに活用できるよう取り組みます。				
③	歴史文化遺産の調査を実施し、新たな価値や魅力発見に努めます。また、出前講座や展示活動等を通じた学び、考える機会の創出とホームページ等様々な媒体を活用して市域の歴史文化遺産の魅力を広く発信します。				
評価		5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績		自己評価	達成評価
①	・市民や時代のニーズを把握するため、公民館主催講座等受講者を対象に、講座についての満足度調査を実施し、多様な学びの機会として講座を実施する。 ・オークタウン加西では、施設環境を活かした体験活動が出来る講座を実施する。	・連続講座51講座、単発講座9講座と昨年度より講座数を増やして実施した。講座のうち5講座は、講座の企画を市民から募集する「公民館講座ドラフト会議」で選ばれた講座を実施した。受講生のアンケート調査では、93.5%の満足・まあ満足との回答を得ており昨年度の89%を大きく上回った。 ・オークタウン加西では、連続講座 4 講座、単発講座 6 講座を実施、施設環境を活かし、星空観察会やアドベンチャークラブ等野外活動を3講座実施した。また、小学生から中学生を対象にした講座を 4 講座実施した。		・市民や時代のニーズに合った満足度の高い学びの場を提供できたため目標を達成できた。 ・オークタウン加西では、施設環境を活かした青少年向けの体験型の講座を実施できたため目標を達成できた。	4
②	・各公民館登録グループが、学びの成果を地域に還元できるよう登録グループの活動を支援と、地域からの要望と公民館登録グループをつなぐコーディネートを実施する。	登録グループによる出前講座は63回と前年度より微増ではあるが、実施することができた。今年度も学童保育園や各町敬老のつどい、いきいきサロンから要請をいただき、そば打ちや、ハーモニカ等楽器演奏、南京玉すだれ等伝統芸能を披露し地域に還元した。		・公民館登録グループの活動内容が地域に認知され、多数の地域の行事への参加依頼を受けるようになった。丁寧な活動の支援、地域とつなぐコーディネートを行い、新たに登録グループとして活動を始める方々も出てきたため目標を達成できた。	4
③	・加西の歴史文化を特徴づける「石の文化」について、石造物の把握を進め、その魅力や価値の発見に努めるため悉皆調査を実施する。 ・歴史文化遺産の魅力を広く発信するため、調査成果や歴史文化に関する出前講座の実施や、SNS等を発信する。	・R6に引き続き、九会、富合、日吉、宇仁、西在田、在田地区の石造物悉皆調査を実施し、計画通り全地区を終えた。調査地点1,162箇所（対象物無を除く）。 ・9月より、Instagramの公式アカウントを開設し、文化財の紹介、整理室での作業の紹介、さまざまな修理事業の報告等々、学芸員が工夫を凝らして25回発信した。フォロワー数は現在265。		・石造物悉皆調査を係全体で協力し実施することができたため目標を達成できた。 ・歴史文化遺産の魅力を広く情報発信するため、Instagramを活用しタイムリーな情報発信に務めたため目標を達成できた。	4
教育委員 評価コメント					
「人生100年時代」を見据えた、まず自ら学ぶ活動、そしてその学びを広めたり、地域に還元する活動を着実に進められており大いに評価できる。 また、加西の歴史文化を特徴づける「石の文化」について、石造物悉皆調査を実施し、その成果をまとめ広める活動もとても評価できる。 引き続き加西の魅力の発掘と発信に努めていただきたい。					

番 号	6	所属課	図書館	
基本方針	生涯にわたる学習の充実			
取組項目				
①	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。			
②	市立図書館と学校園とが連携し、児童生徒の読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。			
③	こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整える支援をします。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	・図書資料を充実し、魅力あるイベントを開催することにより来館者数の増を図る。 ・Webサービス・LINE連携・電子図書館の利用を促進する。	・図書館事業 計133回、参加数計3,719人（R8.2末現在） 来館者数は174,246人（553人/日）（R8.2末現在）市民一人当たりの来館回数は昨年と比べ増加し、様々なイベントの開催により多くの方に来館していただくことができた。 ・学校でも活用してもらえるよう、学校との図書館担当者会にて周知を図ったほか、図書館入口でPR動画を放映した。また、Webサービスの説明会を開催し利用促進に努めた。	・図書資料を充実し、新たなポイント付与イベントでは新規登録者を増やすことができたため目標をほぼ達成できた。 ・Webサービス・LINE連携・電子図書館の利用促進については、LINE連携で約300人の増となり、課題は残るものの目標はほぼ達成できた。	3
②	・こども園や学校からの図書館見学を受け入れ、おはなし会やブックトークなどの出前講座を実施する。	図書館見学は4回受け入れた。また出前講座は、こども園 2回、小学校 24回、中学校 3回実施し、学校図書館と連携しながら読書活動の推進を図った。	・図書館見学と出前講座については、数多くの依頼を受け実施し、さらに学校図書委員向けに読み聞かせのアドバイスや校内の委員会活動へのサポートも実施し目標を達成できた。	4
③	・園・学校からの依頼による図書の団体託送サービス及び定期的な本の巡回貸出を実施する。 ・学校図書館の整理や選書等の支援を行う。	・団体貸出託送サービスは、小中特別支援学校・こども園からの依頼で88回、計3,860冊を貸出した。巡回図書貸出は、中学校 年3回 60冊×4校、こども園 年4回 50冊×4園を実施した。 ・学校図書館相談は小学校から計2回の依頼を受け、図書整理と図書購入アドバイスをを行った。また、統合による学校図書の選書・箱詰、登録変更・配架、書架の移動などの支援を行った。	・図書館からの多くの貸出しにより、学習や読書活動のサポートを行うことができ目標を達成できた。 ・統合に係る学校図書館支援は極めて多くの作業や調整を要したが、各学校や関係部署と連携しながら蔵書整理を進めることができたため目標を達成できた。	4
教育委員 評価コメント				
①来館者数は、短期的な施策でなく、継続して来館してもらえる長期的な施策を検討していただきたい。 ②学校との連携事業は、児童の読書への関心を高める効果的な事業であり、今後も各事業を精査の上、継続する必要がある。 ③学校統合時の図書館支援により、スムーズな学校図書館の移行ができ、今後の連携にも期待できる。				

番 号		7	所属課		学校再編室
基本方針		主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目					
①	学校再編を進めることで、多様な人との関わりと学びの機会を確保し、子どもと教職員、保護者、地域と一緒に成長できる教育環境を整備します。				
②					
③					
評価		5 目標以上の成果を得られた	4 目標を達成できた	3 目標をほぼ達成できた	
		2 目標をあまり達成できなかった	1 目標をほとんど達成できなかった		
取組目標		実績		自己評価	達成評価
①	・統合小学校、統合中学校の開校に向けて、子どもと教職員、保護者、地域の合意形成を図り、丁寧にすすめる。 ・泉中校区の統合小学校のスクールバスの運行に向けて、乗降場所、運行ルート、時刻表を決定する。 ・統合中学校の建設に向けて用地買収、造成工事をすすめる。	・開校準備委員会を泉中校区の統合小学校は6回、善防中校区の統合小学校は3回、統合中学校は3回開催した。委員会では、校名、校章を決定しスクールバスの運行に向けて、乗降場所等の協議を実施した。 ・泉中校区の統合小学校のスクールバスの乗降場所、運行ルート、時刻表を決定した。 ・統合中学校については、用地買収、造成工事をすすめ、校舎の実施設計が完了した。		・開校準備委員会を開催し、子ども、教職員、保護者、地域と合意形成を図り丁寧に進めることができ目標を達成できた。 ・泉中校区スクールバスは、保護者や地域の意見を反映した乗降場所、運行ルート等を決定することができ目標を達成できた。 ・統合中学校の整備は、限られた時間の中で設計を完了させ用地買収、造成工事と進めることができたため目標を達成できた。	4
②					
③					
教育委員 評価コメント					
答申が出されてから3年半という期間で、スピード感を持って、統合準備委員会を中心に立案、実施を進めてこれ、しっかりと内外の統合を進めてこれたことが分かりました。既に統合が進んだ事例をモデルに、更なるプロセスの改善効率化が図られ、児童・生徒・地域の思いに沿った統合小・中学校がうまれますよう取り組んでいただきたい。					

総合コメント

評価委員会 渡邊委員の評価	概ね妥当
令和7年度教育委員会点検評価では、「令和7年度教育の重点」に記載された取組項目から、特に重要な18項目を抽出して、担当部署ごとに「取組目標」、「実績」、「自己評価」を文章で記述したうえで、「達成評価」を5段階の数値で示す形式となっている。全体として、計画された取組目標が着実に進められており、すべての項目において3以上の達成度を得ることができたことは評価できる。それぞれの立場で取組の推進にご尽力いただいた関係各位に心から敬意を表したい。 点検評価の方式が新しくなった昨年度は、各シートの「取組目標」、「実績」、「自己評価」の各欄において何を記述すべきかが不明確で、担当部署間で書きぶりが異なっている部分があった。今回の点検評価では意識がかなり共有され、各欄の記述がより整合的なものとなり、市民が理解しやすいものとなったと考えられる。 「実績」欄では、数値で示すことができる内容については、もう少し数値を記載することにより、「自己評価」の根拠がより客観的で説得力をもつものになると考えられる。また、「自己評価」欄においては、達成評価が「3（目標がほぼ達成できた）」であっても、未達の部分について今後の課題や改善策を記述することで、次年度に向けた取り込みがより明確になるのではないかと。 令和7年度をもって「加西市教育振興基本計画」の第3期が終了し、令和8年度からは第4期が始まる。第3期に積み重ねてきた点検評価を踏まえて、加西市の教育がますます充実したものになることを期待したい。	

評価委員会 後藤委員の評価	概ね妥当
「第3期加西市教育振興基本計画」に基づいた最終年に当たる「令和7年度教育の重点」の多岐に渡る取組の中から、18の取組項目に重点化して点検評価が行われている。取組目標をもとに実績を明記し、自己評価では、真摯な振り返りによる成果と目標達成の程度が的確に示されている。さらに、教育委員による評価コメントも記されており、教育委員会全体での点検評価となっている。評価委員会において、令和7年度18の取組項目に重点化された理由についても、令和6年度からの継続や発展に基づくものであり、年度ごとのつながりも確認できた。また、全体の達成評価をみると、18項目の内4が13項目、3が5項目と目標を達成・ほぼ達成の取組が多く、教育委員会の取組が、令和6年度にも増して順調かつ着実に推進されていることが確認できた。これらのことから点検評価にかかる評価は、概ね妥当と判断します。 令和6年度より新たな点検評価様式となったが、各担当課の取組目標、実績、自己評価の観点や記述表現が整ってきており、よりわかりやすい点検評価となっている。ただ、自己評価において、課題や改善方策がある場合は、目標の達成程度に加えて明記することが、次年度へのつながりとして望ましいと考えます。 点検評価を補完する資料として提示された“教育委員会所管事務報告書（案）”で、進捗の定量的な詳細も把握できた。市民の関心が高い学校再編では、児童生徒・保護者・地域と十分な協議を重ね、丁寧に事業が進められ、その都度情報発信もなされており高く評価できる。令和8年度から統合小学校、統合中学校の開校が順次計画されているが、学校再編に伴い、さらに特色ある「加西BASE」「加西STEAM」「加西GLOBAL」を中心とした学校教育の充実と新たな幼小連携、小中連携・一貫の推進に取り組んでいただきたい。 次年度は、「第4期加西市教育振興基本計画」「令和8年度教育の重点」が策定され、令和7年度の成果を踏まえ、「郷土を愛し豊かに未来を拓く人づくり」をめざした取組が、教育委員会・学校園・家庭・地域が一体となって、より一層推進されることを期待したい。	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の4段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
神戸大学大学院教授	渡邊 隆信
学識経験者	後藤 倫明